プレスリリース

〈報道関係者各位〉

令和６年 10 月 28 日
大阪歴史博物館

難波宮の復元 CG と現実の風景を重ねて見ることができる コンテンツ「ＸＲ難波宮」を公開します

大阪歴史博物館では、令和６年 11 月３日（日・祝）より、ＡＲ（拡張現実）技術などを活用し、スマートフォン、タブレットＰＣ使って難波宮の復元 CG と現実の風景とを重ねて見ることができるコンテンツ「ＸＲ難波宮」を公開します。

このコンテンツは、古代の宮都・難波宮について、デジタル技術を利用して分かりやすく紹介するものです。在りし日の難波宮の姿を今ある遺跡の上に重ねて復元することで、想像が難しい古代のようすを視覚的に理解でき、現在と過去との結びつきが実感できます。

【参考】

AR（Augmented Reality）：「拡張現実」と訳され、現実の環境にコンピューターを用いて画像等の情報を付加する技術です。

XR（X reality）：クロスリアリティー、エクステンデッドリアリティーともいい、「実世界の映像に、コンピューターが生成する仮想的な映像や情報を融合し、多様な視覚体験を可能とする技術の総称。VR（バーチャルリアリティー）、AR（拡張現実）、MR（ミクストリアリティー）、SR（代替現実）など。」（『デジタル大辞泉』より引用）とされています。

難波宮：飛鳥時代から奈良時代にかけて、難波（大阪）におかれた古代の宮都で、大化改新で遷都された前期難波宮（7 世紀中頃）と、聖武天皇によって造営された後期難波宮（8 世紀）があります。戦後、山根徳太郎氏らによって発掘調査が進められ、現在その中心部は史跡公園として整備され、隣接して大阪歴史博物館が建っています。

記

１．名　　称　　「ＸＲ難波宮」の公開

２．主　　催　　大阪歴史博物館

３．公開開始日　令和６年（2024）11 月３日（日・祝）から

４．利用方法　　お手持ちのスマートフォン、タブレットＰＣ（※1）を用いて、指定された場所に設置されたマーカー（二次元コード）を読み取ることで、ご利用いただけます。マーカーを読み込むと、画面上に復元された難波宮の３D モデルが浮かび上がります（※2）。

（※1）AR 機能に対応した背面カメラ付きスマートフォン、タブレットＰＣが必要です。

（※2）当コンテンツのご利用には、アプリ「STYLY」（提供：株式会社 STYLY）のダウンロードが必要です。アプリのご利用は無料ですが、ダウンロードにかかる通信料が別途必要になる場合があります。

５．マーカーの設置場所　　10 階　：常設展示「古代フロア」復元大極殿内（※3）
　　　　　　　　　　　　　１階　：エントランスホール、アトリウム
（※3）常設展示場への入場には常設展示観覧券が必要です。

６．利用料　　　無料（ただし、常設展示場への入場には常設展示観覧券が必要です。）

７．注意事項　　・ご利用の際には、周囲に十分ご注意下さい。
・AR対応のスマホかタブレットでご利用いただけます。
・アプリ「STYLY」の詳細・利用規約等については、「STYLY」ホームページ（https://gallery.styly.cc/）をご確認ください。

８．取材について
取材をご希望の場合は、事前に下記担当までご連絡ください。

（連絡先）大阪歴史博物館 企画広報課 企画広報係
電話 06-6946-5728　ファックス 06-6946-2662

写真１
エントランスでの復元のようす

写真2
10階での復元のようす

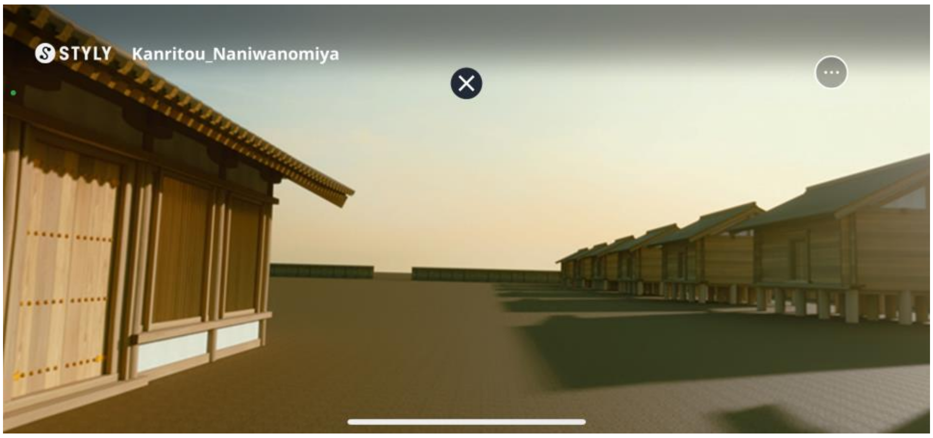

写真3
VRモードでの復元のようす